

造林の勘どころ

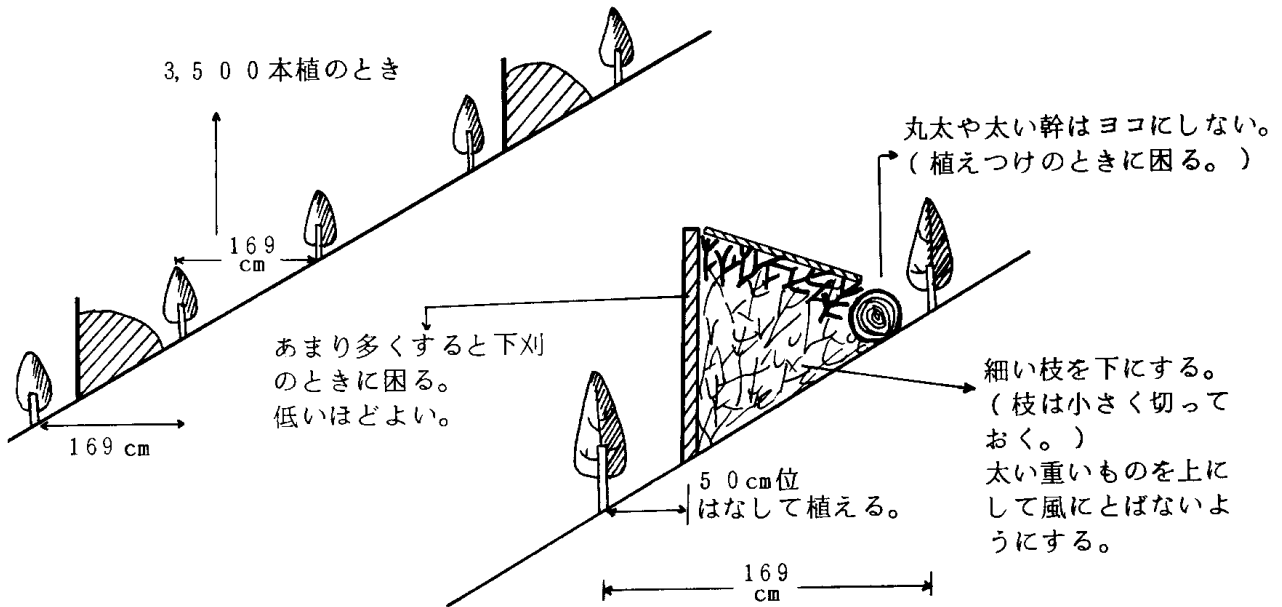
(すぎ・ひのきの場合)

- 1 地ごしらえのこつ
- 2 植えつけのこつ
- 3 苗木のとり扱いのこつ

徳島農林事務所林務課

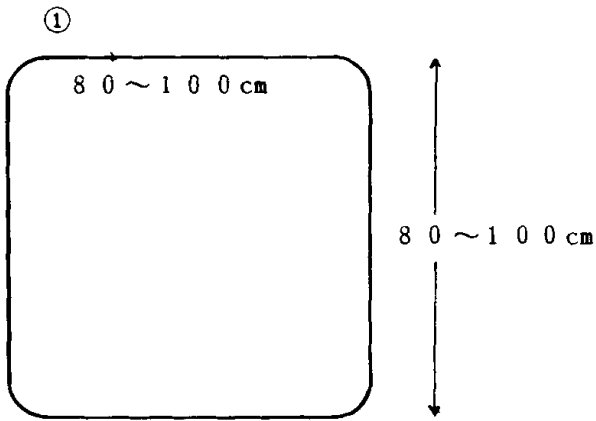
1 地ごしらえのこつ (植えつけや手入れのことを考えてする。)

- (1) 造林地は皆伐にする。
- (2) 株はできるだけ低くきっておく。
- (3) 刈払物は2～3列おきにタナ積みにする。
- (4) 点在のまつなどは思い切って伐採する。
- (5) シイタケ原木やパルプ用伐になるものは利用する。

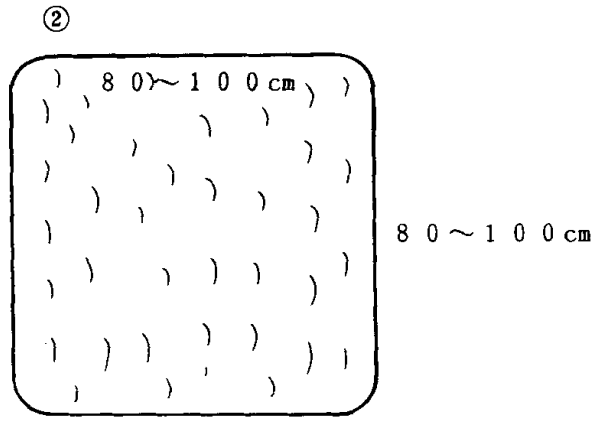


2 植えつけのこつ (枯れないように、その年から伸びるように植える。)

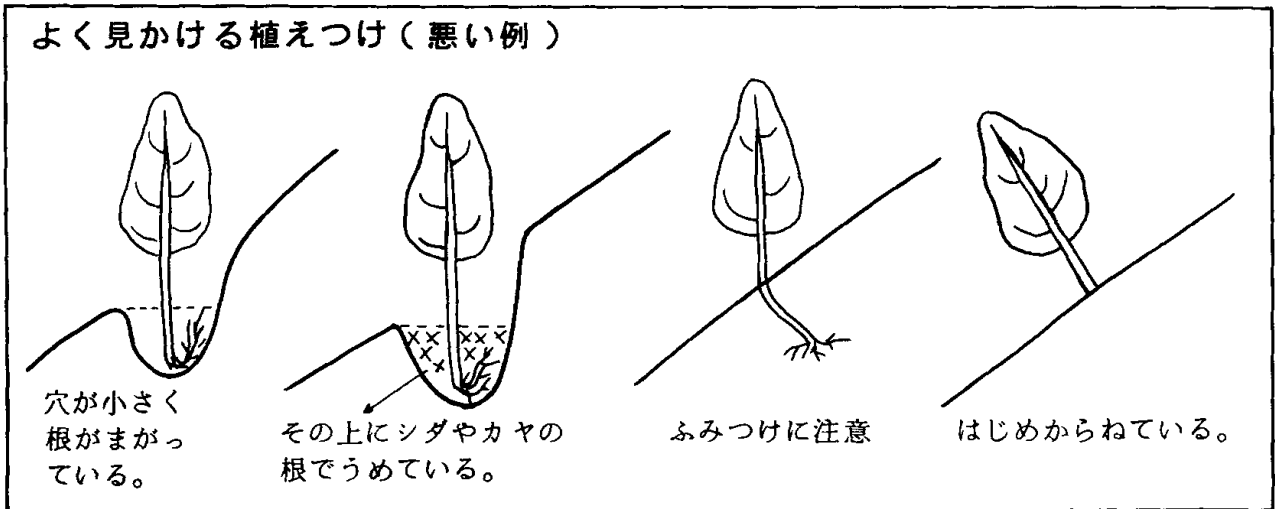
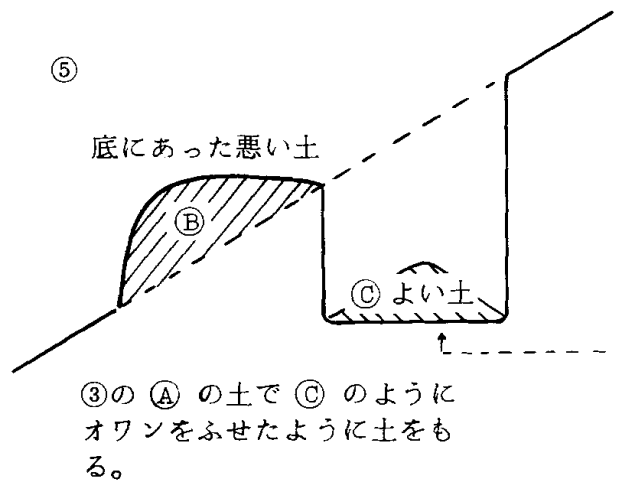
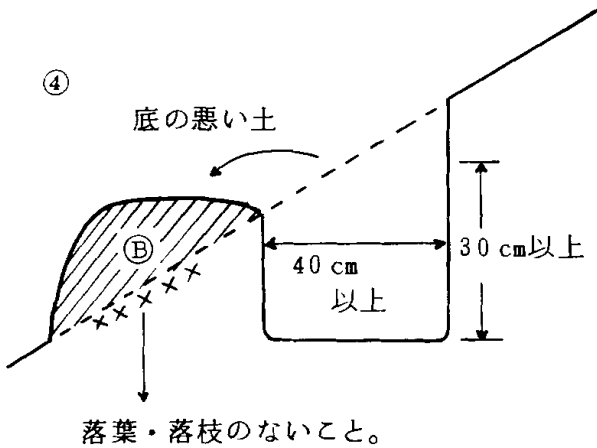
- (1) 苗木が元気をとりもどしてから植える。
- (2) 丈棒を作り疎・密にならないように植える。
- (3) 苗木がまっすぐにのびるように植える。(地ごしらえのタナのすぐ下はよくない。50 cmくらいはなすこと。タナの上の方はよいが！)
- (4) ヒノキの葉には、ウラとオモテがある。陽の多くあたる方へオモテをむける。一般には、山手側にオモテをむける。
- (5) 深くて大きな穴を堀る。(砂質壤土では深植ぎみに植えるのがよい。)
- (6) 表土(よい土)を大事にする。根のまわりにより土を入れる。
- (7) 本当の土(シダの根や、枝葉のまざっていない土)で植える。
- (8) よくふみつける(苗木がまっすぐになるようにして)、はじめ7分目土を入れたときにふみつけ、残りを入れてふみつける。)



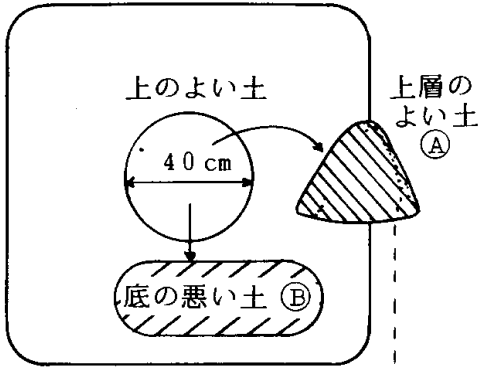
植えるところの地表の
雑草や枝葉をきれいに
除く。



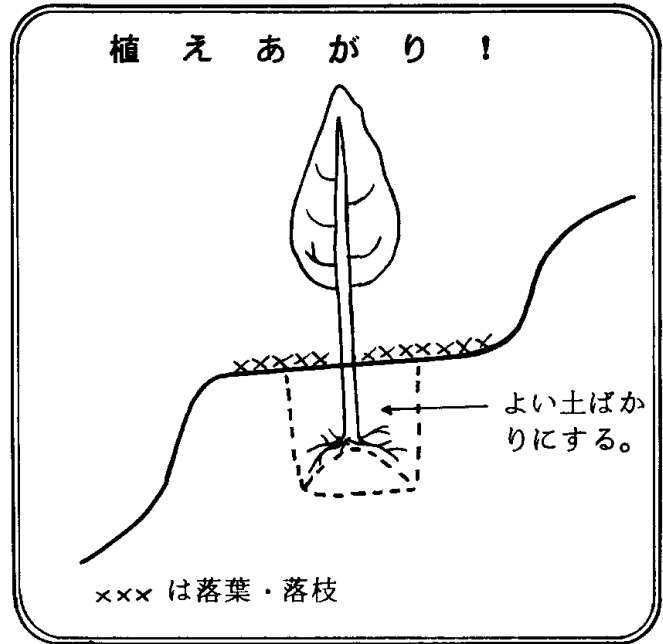
植える附近を耕す。
この範囲にカヤの株な
どがあるときは除く。
耕すことは1回の施肥
のネウチがある。



③



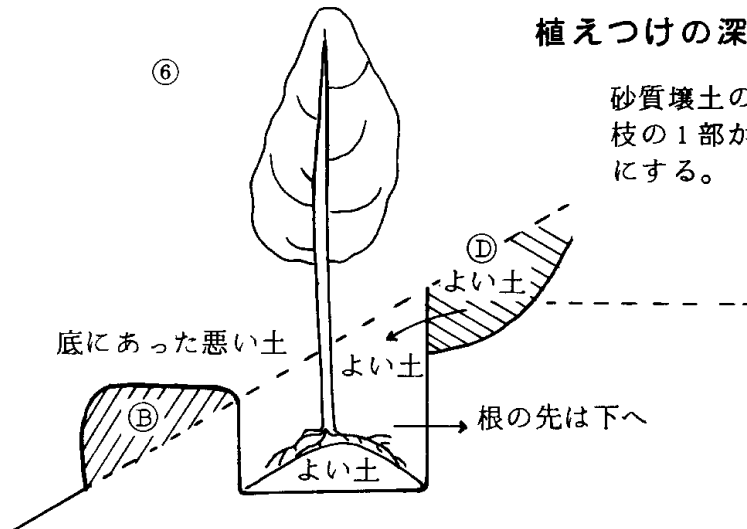
植え穴の表土のよい土をトナリにおく。



植えつけの深さ

砂質壤土のときは下枝の1部がうまる位にする。

⑥



- ① 根を自然の形にはらす。
- ② 根のまわりに ① のよい土を入れる。
① のよい土がたりないときは ② のよい土を用いてうめる。
- ③ 7合目うめたとき、苗木が真っすぐになるようにしてよくふみつける。
- ④ そして、さらに水平になるまで ① からよい土を入れ、真っすぐにしておいてふみつける。
- ⑤ 落葉・落枝をおく。

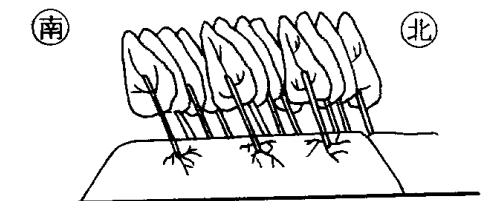
3 苗木のとり扱いのこつ (ゼツタイに乾かさないうこと。)

- (1) 根の長さを 15 cm位に切る。(苗丈が 45 cmのとき)
- (2) 流れ水に 1～2 昼夜 (必ず流れ水のこと。13℃以上のときは、1 昼夜以内のこと。) つけて元気をとりもどさせる。

この間 (流れ水から苗木をあげたときは根が水で洗われて何もついていないので) は湿った土を根にふりかけその上におおいをする。

- (3) 畑仮植をする。(湿り気の多いところ、排水の悪いところはゼツタイにいけない。)

- (4) 束をほどいて、1 本ならべに図のように仮植する。よく土をふりかけておくこと。枝や葉の間から空気がはいつて乾燥しないように!

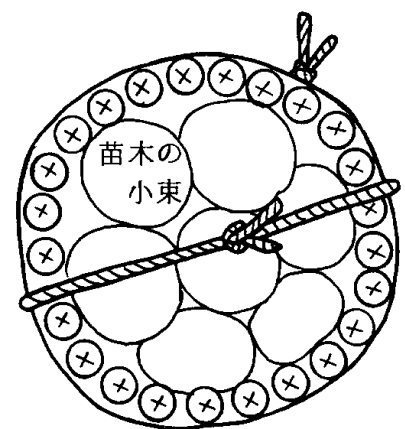
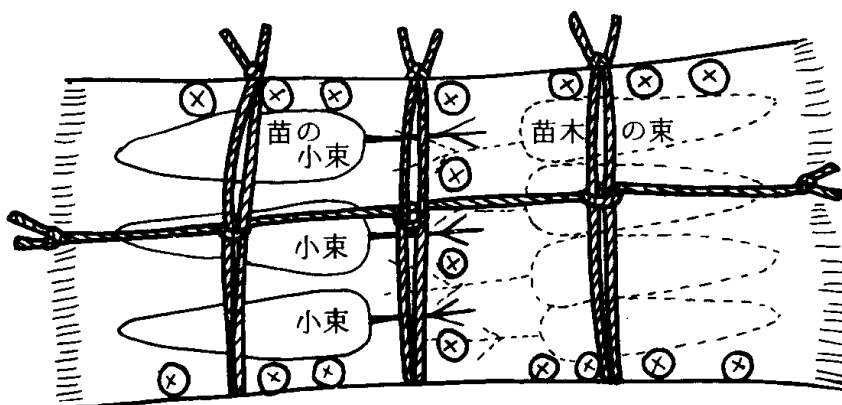


(仮植は南向にやや傾けてする。)

- (5) 作業道の道端仮植は、ところによりけり。(土によりけり。)
- (6) 山へは元気をとりもどしてから、もっていく。
- (7) 山での苗木の持ち運びは小量づつにする。
- (8) 苗木の持運びは必ずコモに入れること。肥料は飼料の紙袋のときは中に肥料の粉が残っているのので注意! また、ビニール袋のときは、陽があたったときに苗木がむれる。コモや紙袋の底には湿ったワラシブを入れておく。

苗木の荷づくり (移出のとき)

- 1 正しく選別すること。
- 2 断根をする。(15 cm位=苗丈 45 cmのとき)
- 3 小束をつくる。(25 本)
- 4 図のようにする。



⊗ はヌレワラ (2～3 日水につけておいたもの) を入れるところ。根の部分に多く入れること。